



# にこにこ通信

◆ 令和元年度 2号 ◆



プール開きの季節を迎え、暑さも本格的になってきました。

にこにこ通信令和元年度2号では、平成27年度から始まった長尾楽笑村（ながおらくしょうむら）での田植え行事の様子をお伝えしたいと思います。

今年で5年目に突入した田植え行事で、長尾楽笑村ではもち米を作っています。今回は、私たち保育コンシェルジュも子どもたちと一緒に元気いっぱい参加させて頂きました。

ねらいは『食育、泥との自然体験、自分たちの食べているお米が、たくさんの人の関わりによって出来ているということ学ぶ』です。

長尾楽笑村の組合の方々のご指導の下、真浄寺保育園・真浄寺きくなみ保育園・米田保育園・荒井保育園・阿弥陀こども園・曾根保育園各園の年長さんと高砂児童学園の子どもたちが田植えに初挑戦しました。



恐る恐る田んぼに足を入れると、こどもたちの第一声は『キャーッ！』『つめたい！』とあちこちから悲鳴にも似たような声があがっていました。慣れてくると不安そうな顔が『きもちいい！』と笑顔に変わり、ニュッと足が泥に入る感触を楽しんでいました。いよいよ苗を植えていきます。ピンッと張った糸に沿って一列に並んで組合の方と一緒に『美味しいお米にな〜れ』と掛け声をかけながら小さな手で苗の束を丁寧に下までギュッと植え込みます。ピンッと立っている苗や傾いている苗など様々です。組合の方はひとりひとりに付き添って丁寧に指導されていました。

『上手だねー』『うまい、うまい』と声かけをしてもらい、こどもたちはとても満足気でした。植えるのは順調なこどもたちでしたが、田んぼを出るのは一苦労。足を取られて尻もちをついたり、太ももまで沈んでしまう子が続出。でも、田植えの楽しさを知ったこどもたちは『どろんこきもちよかった〜』『あしのした、もちもちやった！』とニコニコしながら笑顔で話してくれました。



田植えが終わって土手で整列するこどもたち。何をするのか？と見ていると『向こうの土手までかけっこするよ。よーいドン！』と園長先生の掛け声と共に泥しびきが上がり、かけっこが始まりました。保育士さんもこどもたちも泥んこになって素敵な笑顔を見せてくれました。かけっこが終わると、高砂市役所 産業振興課の職員さんと “ どんこ相撲 ” がはじまりました。『のこった のこった』と一生懸命でした。



田植えが終わった後は、定期的に草取りと水替え→かかし作り→稲刈り→収穫そしてこどもたちが楽しみにしているおもちつきがあります。

『ここ数年不作はなし！』と会長の松本さん。草と水の管理が大変だそうです。作れば作るほど土が肥えて良い田んぼになると豆知識を教えてくださいました。長尾楽笑村ではお米を生産している他、野菜の直売や小中学校の給食で使う地元野菜の納品をされています。毎年1月15日にはとんど焼きもされているそうです。

田植え体験は土遊びのような感覚で、楽しみながら五感と感性を育むとても良い経験だと思います。私達も初めて田んぼに入らせてもらったのですが、ひんやりと冷たい土が気持ちよく、思っていたよりもスムーズに歩くことが出来たので想像とは異なり驚きました。長尾楽笑村のみなさん貴重な体験をありがとうございました。